

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月4日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲1684		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者が住み慣れた地域の中で、ゆったりと安心して生活できるように、常にいたわりと優しさを持って、日々の支援に取り組んでいる。また、入居者と職員は和気藹々楽しく暮らし、町内会にも加入し、地域の方との交流を一層深め、家族の協力も得ながら、共に支え合っていくホームを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970500249&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970500249&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年12月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田や園芸施設がある市道沿いの閑静な住宅地に立地している。また、経営体や母体となる医療法人も近くにあり、代表者も度々事業所を訪れたり、医療連携などのバックアップ体制も整っている。管理者をはじめ職員は利用者と家族同様の馴染みの関係を築き、寄り添いながら日々の支援に取り組んでいる。また、地域の一斉清掃や神社祭り、自主防災会の訓練などに参加したり、家族への無記名式のアンケートにより忌憚のない意見を汲み上げたり、家族の協力を得て外出するなど、共に支え合っていく関係を築いている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: GHすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会や毎日のミーティング等でケアについて話し合い、その際に理念を振り返り、確認しながら実践につなげている。	利用者にゆったり、安心して過ごしてもらうことを目指す事業所独自の運営理念を作成している。職員会やケアの検討会などの機会を捉えて理念を確認するとともに、地域や家族と支え合っていく関係を大切に日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して地域の一斉清掃や自主防災訓練に参加している。ホームの外で地域の方と会うことがあれば挨拶を交わしたり、時には地域の方が花やお菓子等を持参してくれる場面もある。	散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、地域の一斉清掃や神祭などに地域の一員として参加している。また、歌や踊りのボランティアの訪問を受けたり、近所の住民から野菜や花、ぬいぐるみなどの差し入れがあるなど、日頃から交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを介して地域の方と交流があり、利用者や接することで認知症の理解につなげたり、介護実習などの受け入れの用意もしている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの現状報告や課題となっていることを議題にあげ、地域や家族の代表から意見や質問、情報提供などがあり、双方向的な会議となっている。話し合いを受けて、より良いサービスが提供できるように努めている。	利用者の状況や運営状況等について報告するほか、災害対策やグループホームの使命なども議題にあげている。また、評価結果や課題への対応なども直近の会議で報告し、運営につなげている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の講習に参加したり、解らないことがあれば市の担当職員に相談したり、指導を受けるなど、日頃からの関係づくりに努めている。	市の担当課や地域包括支援センターとは、市主催の研修会や運営推進会議、報告案件や利用者に関する情報交換などを通して関係を築き、制度の運用などの相談をしている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないケアについて、職員に周知するとともに、利用者に自由に暮らしてもらうようにしている。就寝時の転落防止のためベッド柵を使用している事例があるが、家族の同意を得るとともに、時間帯なども必要最小限度の対応としている。	身体拘束に関する研修会に参加したり、ミーティングを通して、職員の理解を深め、言葉による拘束など気になる場面があれば、その都度注意している。安全対策面から家族の同意を得てベッド柵を使用している事例もある。また、日中は玄関に施錠していないが、現在は外出傾向のある利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加したり、日頃から利用者一人ひとりの身体状況の観察を行い、何かあれば報告するようにしている、職員同士が互いに注意し合う職場を目指している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会等の主催する研修に参加し、制度を学んでいる。ホーム内でも勉強会で取り上げ職員の理解を深めるとともに、相談等があれば支援していくようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容等を説明し、家族の不安点や疑問点にも答え、理解と納得が得られるようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に個別に意見や要望等を聞き取るよう心掛けている。また、家族のみで話し合ってもらう機会を設けたり、アンケートを実施するなど、家族の意向を汲み取る工夫もしている。	家族の面会の機会も多く、利用者の暮らしの共有や外出支援などの協力を得ている。前回評価を受けて、家族のみで話し合う機会を設けたり、無記名アンケートを実施するなど、意見等の把握に工夫している。健康管理や転倒予防、歩行介助、安眠支援などの意見を受けて、職員間で共有しケアにつなげている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れに当たり、職員とも情報を共有している。運営に関しても職員の意見や提案を受けて話し合いながら対応している。	職員会や日々の会話の中で職員から意見や提案を出してもらっている。業務の役割分担や入浴支援に応じた脱衣スペースの目隠しなど、運営に反映させている。また、外出支援などの充実に向けて公用車の確保について経営体に相談している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の一人ひとりの勤務状況を把握し、給料の水準、労働時間などのバランスを考え、働きやすい職場づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成に重きを置き、職員一人ひとりの経験や力量に応じた研修に参加してもらうよう配慮している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と意見交換や情報提供などしながら、サービスの向上に活かしていくようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で、本人の要望や不安などの言葉に耳を傾け、できるだけ早くホームに慣れてもらい、安心と信頼を得るように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、家族の要望や不安などについて耳を傾け、ホームの方針等を説明し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズを把握し、家族とも話し合いながらホームでのサービス内容や他のサービスも含めてが検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、家族同様に愛情を持って接し、共に暮らしていく者同士の関係を築いていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係を大切にしながら、家族の協力のもとで共に支え合える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人などが訪ねてきやすい雰囲気づくりを心がけ、ゆっくり話ができる機会を設けている。また、馴染みの場所との関係継続に向けて、家族の協力も得ている。	友人等の面会を受けて交流したり、家族の協力で行きつけの美容院に行ったり、自宅のミカン畑を見に行くなどしている。事業所でも利用者の希望に応じて自宅周辺に出かけるなど、これまでの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係などを理解しており、トラブルになりそうな場合は仲裁に入るなど、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話をしたり、訪問や見舞いなどを通して近況を把握するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者の言動や行動からその思いを把握している。また、困難な場合は表情や仕草、家族から情報を得て職員間で検討しながら検討している。	利用者一人ひとりの生活歴等を把握し、利用者との関わりの中で、その思いや希望を把握している。困難な場合は家族の意見を聞いたり、表情や行動などから思いを推察するなどして、利用者の立場から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行うとともに、入居後も、家族への聞き取りや、日常生活での会話の中から生活歴やその他の状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状況や生活能力などを総合的に把握している。職員は、ミーティングや申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や要望も聞きながら、日々のミーティングや職員会などで職員の意見やアイデアを出してもらい、現状に即した介護計画を作成している。	毎月、職員2名で実践状況の評価を行い、3カ月毎の計画の見直し時に、利用者、家族の意向、職員の気づきなどを踏まえ、計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や状態、職員の気づきなど個別に記録し、職員間で情報を共有しながら、計画に沿って実践状況の評価表も作成し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせ、可能な範囲で既存のサービス以外に通院受診や手続きの代行など、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の踊りを見る機会を設けたり、利用者と職員の共同作品を地域主催の展示会などに出品することで、本人の力を発揮してもらったり、豊かな暮らしにつながるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、納得が得られるかかりつけ医と適切な治療が受けられるように支援している。	利用者、家族の希望に沿って、従来からのかかりつけ医や専門医で受診したり、協力病院の往診を受けたり、通院するなど、適切な医療が受けられるよう柔軟に対応している。通院介助は家族と分担して行い、受診結果は家族と連絡を取り合ったり、職員間は申し送りや記録を通して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や協力病院等の看護職員に現況を伝え、相談しながら適切な受診やケアが行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況等について情報交換を行い、安心して治療が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の対応について、家族には日頃か利用者の現状や今後起こりうるリスクなどについて説明し、今後のことについても話し合いを行っている。	入居時に、重度化した場合の対応などを説明し、同意を得ている。これまで事業所での看取りの事例はなく、家族の意向に沿って医療機関と連携しながら支援しており、入院時の家族負担の軽減などに配慮している。	終末期に向けた事業所としてできる対応について、看取り介護の指針を勉強会で取り上げるなど、職員間で共有しておくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法を学ぶ機会を持ち、急変時には落ち着いて対応できるようにしている。今後も定期的に訓練を行い、実践力を身につけていくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所で防災訓練を実施し、家族の意見を受けて夜間想定訓練も計画している。また、地域の自主防災訓練に参加するなどして、協力が得られるよう、関係づくりに努めている。	消防署の指導を得て、事業所の消火訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。運営推進会議の話題に上げたり、地域の自主防災訓練に参加するなど、地域との関係づくりに取り組んでいる。災害時の飲食料品の備蓄の準備をしている。	災害時には地域の協力が欠かせないので、引き続き、運営推進会議を通じて地域に呼びかけたり、自主防災組織との協働体制づくりなどの工夫を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや傷つける言葉には注意しながらケアを行っていきよう、職員に周知を図っている。	利用者の尊厳の保持に通じる「いたわりの心」を理念に掲げ、介護の場面に応じて利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。特に、親しい関係の中での言葉遣いに注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、利用者との会話や選択できる場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないよう職員一人ひとりが自覚し、利用者のペースにあわせたケアの実践を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、清潔に気持ちよく過ごしてもらうよう、身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者の好みの物を取り入れるように努めている。利用者の能力や調理などへの関心などの違いはあるが、テーブル拭きや食器を運びやすいようにしてもらうなど、できるだけ関わりを持ってもらう場面づくりに配慮している。	母体の医療法人の栄養士の作成する献立をもとに、利用者の希望も聞きながらアレンジしている。利用者は、下ごしらえやテーブル拭き、食器の片づけなど、できることを職員と一緒にしている。職員は利用者の状況に応じ食事介助をしたり、利用者のペースで食事できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分の摂取状況を把握し、少ない場合は個々に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの言葉がけをしながら、見守りや介助など、個々に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄パターンを把握し、個々の支援内容について話し合い、介護計画書にも目標を掲げながら、排泄の自立支援に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう支援している。利用者の状況に応じた排泄用品を使用しながら個別に対応している。入居前に排泄の介助が必要であった利用者が、日中は自分で排泄できるようになった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や散歩、水分摂取や好きな飲み物などにも気を配り、できるだけ便秘にならないよう、医師にも相談しながら支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望がに沿って入浴支援をしているが、概ね午後入浴が習慣となっている。また、入居後に入浴が徐々に定着した事例もある。	15時から17時半までの時間帯の入浴が習慣となっている。行事や外出などに応じて午前中に入浴するなど柔軟に対応しており、概ね2日に1回のペースで入浴している。現在、入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせて自由に休息したり、ている昼食後の昼寝が定着している。今後はこの点についても検討しながら、安心して眠れるよう支援していく。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬について気を配り、何か症状の変化があればすぐに家族に連絡し、医師の指示を得るようにしている。また、職員間での申し送りや伝達の徹底をしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや買物、折り紙など、利用者一人ひとりの思いや希望にそって、その人らしく楽しく過ごしてもらうよう配慮している。また、本人の状況に応じて投票にも行くようにしている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら帰宅したり、馴染みの店などに出かけている。んどにや外出支援をしている。ホームでも希望に応じて散歩に行ったり、季節の花見などに出かけている。	利用者の希望に沿って、日常的に事業所周辺を散歩したり、買物のほか、花見や行楽など車椅子の利用者も一緒に出かけている。また、玄関先で外気に触れる機会を設けたり、家族の協力外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じて自分で少額の金銭を所持している方もいる。買物には職員と一緒にいたり、家族の協力を得るなど、協力しながら支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話や手紙でやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節に応じた花や壁飾り、また、気持ちよく過ごせるよう清潔な空間を心がけている。	道沿いのスペースを利用して季節の野菜を栽培したり、玄関先にさりげなく鉢植えを置いたり、室内にはクリスマス飾りや絵画をかけるなど、落ち着いた雰囲気がある。また、利用者は思い思いにソファや畳の間でゆっくりくつろげる空間となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋やソファで出で気の合うのも同士で過ごしたり、一人になりたい時は居室でゆっくり、自由に過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、各自に合った馴染みの物や希望する品物を持ち込み、その人らしい居室となるよう工夫している。利用者の折り紙の作品が各居室に配られている。	整理ダンスや衣装ケースのほか、テレビや家族写真、ぬいぐるみ、身の回り品などを持ち込み、それぞれ個性のある居室となっている。また、利用者と職員が作った折り紙作品を各居室に貼るなど、共に暮らす者同士の和みと温かさが窺える。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自ができること、可能な方は皆で協力しながら洗濯物をたたむなど、安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		

ユニット名:

GHすずらん

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない